

校長室だより

共学共高

第
63
号

令和6年4月16日発行

発行責任者
白梅学園高等学校長
武内 彰

第61期 新入生歓迎会

4月13日（土）、第61期生を迎えて全校生徒による「新入生歓迎会」が開催された。実行委員長のSさんが当日の朝、わざわざ校長室までお迎えに来てくれた。会場に入ると、すでに2・3年生が着席して待機している。

吹奏楽部の生演奏の下、新入生の入場である。緊張している顔、歯がゆそうな顔、笑顔など、一人一人それぞれの表情を見せている。やはり、生演奏で入場するというのは嬉しいのではないだろうか。

開会式では実行委員長のSさんによる開会宣言がなされ、いよいよ始まりである。舞台発表をする部活動は、春季休業日中から入念に準備を進めてきていた。発表が楽しみである。私の挨拶では、「普段は優しく穏やかな白梅生ですが、ここぞというときにはものすごい力を発揮します。白梅生のパワーとエネルギーを感じて大いに楽しんでください」とのメッセージを送った。

すべての部活動紹介も行われたのだが、舞台発表についてのみ紹介させていただく。

吹奏楽部は相変わらず見事な演奏を披露してくれる。ソロパートでも素敵な演奏ぶりだ。定期演奏会でも演奏されたミッキー・マーチで盛り上げを見せてくれた。パーカッションを担当する生徒の笑顔での演奏が印象的だ。演奏を楽しむ様子が伺えて、共感できる。



新入生の座席（入場前）



吹奏楽部

ダンス部は部員数も多い。さまざまなジャンルのダンスをさまざまな衣装を身にまとい、観る者を引き付ける。そばにいた1年生も「ダンス部がすごかったです」と話してくれ

た。また、この後多くの入部者を獲得するに違いない。在校生たちからも大きな歓声が上がっていた。

書道部はここ数年で部員数も増えて、非常に活性化してきている。大がかりな作品を3年生が一つ、1・2年生が一つ完成させて披露した。はかま姿も素敵だが、ひざを折ってから書き出すしぐさや大きな筆で豪快に描く姿は、やはり観る者を引き付ける。近くの1年生からは「すごい」との声が漏れていた。

合唱部も素敵な歌声を披露してくれた。決して人数は多くないが、いつもD棟の教室で練習している姿そのままに、奇麗なハーモニーを聞かせてくれる。Tさんが全身を使って表現する姿には思わず応援したくなる。誰が弾いてくれたのか、ピアノ伴奏も素敵だった。

昨年は新入部員が1名と危機的状況だと話してくれた58期生が卒業し、どうなるかと思ったが、演劇部も健在だ。オリジナルの脚本で、随所に笑いをとる素敵な演技であった。登場人物の女性は、シンデレラなのか白雪姫なのか、いったいどちらなのかしらと思っていたが、結果には驚かされた。やはり演劇部には欠かさずに登場してもらいたい。



ダンス部



書道部



合唱部



箏曲部



演劇部



バトン部

箏曲部も部員数がだいぶ増えたようだ。いつもは和室や多目的ホールで練習をしているが、見事な演奏を披露してくれた。現代風の曲を上手にアレンジしているのにも驚いた。引き続き、様々な行事でも演奏を披露してほしいものだ。

ダンス部と同じくらいインパクトがあるのが、バトン部である。新入生たちのハートをしっかりとつかんだようだ。笑顔で軽快に踊る姿に「可愛いー」という掛け声が何度も飛ぶ。バトンの演技では、難しい空中技(?)をかなりの確度で成功させていたのが印象的だ。そのたびに、歓声が上がっていた。

舞台発表の締めは、軽音楽部である。ここも大人数の部員を抱えている。ステージに上られるのは、オーディションを通過したバンドと聞いている。演奏もボーカルもしっかりしている。そういえば、昨年の白梅祭の演奏を聴いて、あるバンドのコピーをしたグループがいた。私はその曲が気に入ったので、CDを購入して、よく聴いている。(いまどきの生徒はCDではなく、スマホでダウンロードするのだろうが・・・)



軽音楽部



生徒会

生徒会も舞台発表をする。今の生徒会メンバーは歌って踊れる生徒たちがそろっている。私の生徒会に対する見方が変わったのは言うまでもない。生徒会からは「先生も一緒に踊り

ませんか」と言われたこともあるが、とても無理である。

1年生たちの姿を見ていると、食い入るように舞台を見つめる生徒たちが多い。上級生たちのパフォーマンスに何かを感じてくれたのではないか。あなたたちも白梅学園の一員なのだ。教科の学習の他に、何か一つ自分のやりたいことを見つけて、文武両道の学校生活を過ごし、大きく成長してくれることを願っている。

実行委員長のSさんの閉会宣言で、会は終了した。実行委員、有志のみなさん、お疲れさまでした。そして、生徒たちを支えてくれた担当のS先生をはじめ、生活指導部の先生方、ありがとうございました。

活気ある1年間になりそうだ。

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)